

緑茶の消費と緑茶についての意識調査

修善寺熊坂小 木内茂子 文教大教育○泉敬子

目的 緑茶は日本人の食生活に欠かすことができないものである。緑茶の一缶あたり
の消費量は地域によってかなりの差があると報告されている。そこで今回は生産量も消費
量も多い静岡県、生産は少ないが消費の多い宮城県、生産量も消費量も少ない和歌山、広島など
の4地域について消費実態、緑茶についての意識などをしるべ、各地域において緑茶がどの
ように食生活へのかかわりをもち、位置づけられているかを知る目的で本調査を行った。

方法 対象を上記各地域の男女100名にもランダムサンプリングによりえらんで、質問
紙法により調査した。回収率は静岡88%、宮城88%、和歌山75%、広島62%であった。

結果 ①緑茶、紅茶、コーヒー、ジュースのうちもっとも好む飲料としては、静岡80%
、宮城74%、和歌山72%、広島72%の人が緑茶を最も好んでいる。

②緑茶を好む理由としてはあまりないから、さっぱりして口当たりがよいから、香りがよい
からなどが多い。地域性は見られなかった。

③緑茶が嫌いな人は静岡5%、宮城10%、和歌山26%、広島27%となっており、緑茶の
消費量と関連がある。その理由としては不味、渋み、苦みなどが主にあげられている。

④飲用回数(1日平均)

静岡、宮城では5回、和歌山3回、広島は殆ど飲まないとなっている。

⑤1日の飲用量

静岡50、宮城30、和歌山100、広島50 (単位ml)

⑥好む種類 静岡、宮城では煎茶、和歌山、広島では玄米茶が最も多い。